

## 第 19 回 まちとすまいの集い「健やかに築く～まちとすまい」を開催しました

大学院環境学研究科都市環境学専攻建築学教室は、10月7日(土)、環境総合館レクチャーホールにて、「まちとすまいの集い」を開催し、約60名の市民や学生の皆様にご参加頂きました。

人口減少・超高齢化、働き方改革といった話題とともに、市民の「健康」に関する関心が高まっています。市民生活を支える「まちやすまい」は心身の健康を育む大切な環境であるとともに、まちやすまいの健康そのものが地球の健康にも影響を与えています。第19回目の開催となる「まちとすまいの集い」では「健やかに築く～まちとすまい」をテーマに、建築学教室に所属する教員がそれぞれの専門をふまえた幅広い視点から「健康」について論じました。

講演に先立ち、建築学教室主任である片木篤教授より、主催者挨拶とともに健康や衛生といった概念が近代都市を形成するうえでの重要な要因であったという歴史を紹介頂きました。

丸山一平教授(建築材料)からは「すまいと社会の健康について」と題し、「健康」をその定義からひもとき、健康な都市や文明を担うレジリエンスとはどういうものかという観点から世界の事例を紹介頂き、次世代にどのようにうまく社会をつなげていくことができるか、また、建築物の健康な状態を維持するための方法について解説がありました。

太幡英亮准教授(建築計画)からは「健康的なライフスタイル～そのための「まち」と「すまい」と題し、現代社会における健康なライフスタイルを支えるための取組みとして、子連れコワーキングスペース、農のあるサードプレイス、ウォークブルタウン+多世代型児童館について紹介を頂きました。

齋藤輝幸准教授(建築設備)は、「健康と快適～「すまい」の冷暖房と暮らし方」と題して、快適性と健康とのバランスをどう考えるかについて、温熱環境の目標設定の考え方、また、すまいにおける睡眠、浴室、トイレなどの環境と健康の関係について解説をされました。

講演終了後は会場から質問をいただき、講演者の応答を交え、盛況のうちに終了しました。

